東京都小笠原村「清見が岡鍾乳洞」測量報告

野池 耕平 (NOIKE, Kohei　東京スペレオクラブ所属　東京都在住)

はじめに

2010年２月､あるきっかけで東京都小笠原村､父島･母島へ訪れることができた。一面は真っ青な海。本州では見られない植物や動物。鳥たちの唄声を聴きながら小笠原の自然を満喫。フェリーからはクジラだって眺めることもできる。

しかし、でかける先々で洞窟があるかどうか調べてしまう、未測量なら測量したくなるのは悲しきケイバーの性だろう。気が付いたら僕は、母島にある「清見が岡鍾乳洞」を測量していた。

小笠原群島概要

小笠原群島は、東京都特別区から南南東へ 1,000km ほどにあり、その多くは火山活動によってできた島である。行政上は東京都小笠原村に属する。そのほとんどは無人島であり、一般住民が生活している島は、父島・母島のみである。

形成以来大陸から隔離されていた小笠原諸島は、本州とは異なる独自の生物進化が見られる。気候は亜熱帯に属し、年間を通して暖かい。地質は、おおくは古第三紀の海底火山による火山岩 (安山岩類、無人岩など) であり､溶岩が流れた様子がそのまま見られる (枕状溶岩) こともある。一部では石灰岩も分布しており、石灰洞の存在も知られている。父島・母島の石灰洞調査報告として、「田中，1981. 小笠原諸島の石灰岩地帯及び洞窟分布に関する報告 (1)」(以下､田中 (1981) と呼ぶ) がある。

交通アクセス

父島へは、東京都港区にある、東京港竹芝客船ターミナルより、小笠原海運フェリー「おがさわら丸」で行くことが、唯一の交通手段である。およそ６日に１便出港しているおり、片道は 25 時間半ほど。

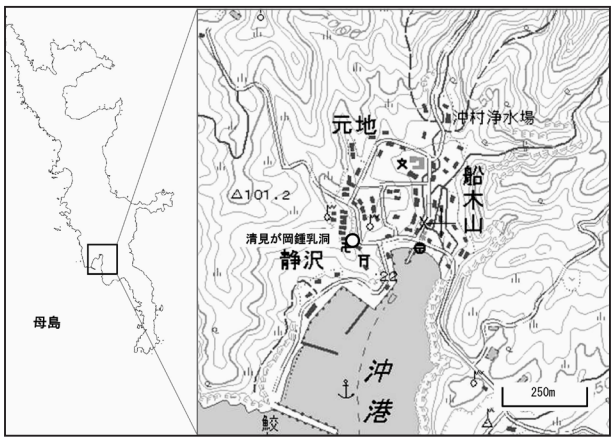
母島へは、父島より出港している「ははじま丸」で行くことができる。およそ１～２日に１便出港しているが、こちらは事前に予約することができない。

父島行きフェリー「おがさわら丸」

小笠原群島の洞窟

エコツーリズムの導入から、小笠原群島内にある洞窟のほとんどは自由に入洞できない。それは、小笠原群島独自の自然を守るための働きのためである。たとえば、小笠原群島で最大規模を誇る「石門鍾乳洞」へは、ガイドを伴うことで洞口近くまでは行くことができるが、カラスバト繁殖期である 10 月から２月までは入山禁止となる。なお、本洞窟は安全面から入洞禁止の措置が取られている。

小笠原群島で唯一入洞可能な洞窟は、母島元地にある「清見が岡鍾乳洞」であり、これは観光洞として開放されている。港からも徒歩５分ほどと近い。図面としては、田中 (1981) があるが、概要図であり、正確な総延長等は公にされていない。そのため、このたび「清見が岡鍾乳洞」の測量を実施した。母島観光協会へ提出した報告書「野池，2010. 父島・母島における石灰洞と、清見が岡鍾乳洞測量結果について」から抜粋し、ここに測量成果を報告する。



清見が岡鍾乳洞の位置

清見が岡鍾乳洞概要

名　称	清見が岡鍾乳洞 (Kiyomigaoka-shonyudo)
所在地	東京都小笠原村母島元地
	北緯 26 度 38 分 23.2 秒
	東経 142 度 09 分 32.8 秒　※第１洞口
洞口標高	24m
洞口数	4(人工洞含む)
総延長	62.5m(人工洞含む)
高低差	9.0m
水　流	なし
備　考	観光洞 (母島観光協会管理)